# 目標の進捗状況報告書

## （2012年度・大学）

担当部局は　　☆印の箇所を記入してください。

## Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 対象部局 | 文学研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 （研究科） |
| 中項目 | 6.4 成果 |
| 小項目 | 6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 |
| 要素 | 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 |
| | 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） |
| 小項目 | 6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 |
| 要素 | 学位授与基準、学位授与手続きの適切性 |
| | 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門） |

## Ⅱ．目標の進捗評価と進捗状況報告（2012.4.30現在の進捗状況報告）

**《進捗評価》**

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。
進捗評価はA､B､C､Dの４段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。
A､B､C､D評価は目安として次のようなものである。

A　：　目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B　：　目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C　：　目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D　：　目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．公正で透明性の高い学位論文審査体制を構築する。 | →外部審査委員の委嘱状況、学位論文公開発表会、審査会の開催状況。 | A | A | A | | |
| 2．学位論文執筆に向けたインセンティブを高めるための学生自身による学修・研究成果にかかる自己評価を試行する。 | →履修・研究計画に対応した学生自身の研究活動に関する自己評価（特に博士論文計画書・予備論文提出などの手順を踏まえた研究進捗状況に関する評価）の実施状況。自己評価を踏まえた教員による評価・指導の実施状況。 | B | B | B | | |
| 3．前期課程・後期課程修了後の進路状況を把握し、それに対応した教育内容・方法等の検討を進める。 | →進路状況（就職・進学・資格取得等）の状況。それを踏まえた大学院にふさわしい指導のあり方の検討の進捗状況。 | C | C | B | | |
| | | | | ☆ | | |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

**《進捗状況》**

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|---|---|
| 目標1 | 博士学位授与手続適正化のための制度改革を行い、外部審査委員のより一層の積極的登用、公開発表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入し、その方針に従って学位授与審査が行われている。2011年度は博士学位申請論文数18のうち、外部審査委員は14名（内、学内他部局所属教員2名、他大学所属教員12名）であった。 |
| ☆ 目標2 | 後期課程学生に博士論文計画書や予備論文の提出を義務づけ、その審査・承認後に「博士論文作成演習」「特別研究」を履修させることで、個々の学生に応じた緻密な指導を行っている。2011年度の博士論文計画書提出数は13、予備論文提出数は14本であった。また、後期課程研究奨励金や大学院奨励研究員、日本学術振興会特別研究員等の種々の競争的資金に積極的に応募させることによって、研究に対する学生自身のインセンティブ向上と自己評価を行わせている。 |
| 目標3 | 当研究科では、研究領域によって学生の進路志望も就職状況も大きく異なるため、領域を単位にした進路志望と就職状況をきめ細かく調査している。また、高度専門職志望者の多い心理学領域・学校教育学領域では、臨床発達心理士の学内取得を可能とする新たな科目を設置し、資格取得に対応した科目群のなかで、より学生のニーズに応じた指導を行うようにしている。 |
| 備考 | 目標２について、2011年度の採用者数はあわせて11名（後期課程研究奨励金3名、大学院奨励研究員2名、日本学術振興会特別研究員6名）であった。 |